

「大学国際化のマネジメント」に関するアンケート調査

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度は、日本の大学国際化のマネジメントに関する調査にご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

国際化は大学の教育、研究、社会貢献の改革や改善を図るための手段やプロセスであり、本来、個々の大学がその理念や特徴に応じて、独自の方法で取り組むものです。しかし、国際化のマネジメント手法が開発されていないために、国際化が目的化したり、画一的かつ表面的な国際化に留まったりしている現状があります。

本研究は、日本の大学の国際化に対する取り組みを実証的に検証・考察し、様々な制約の下で戦略的に国際化を推進する際に必要なマネジメント手法を開発することを目的としています。具体的には、AHP（Analytic Hierarchy Process、階層分析法）を用いることによって、学内の合意を得ながら国際化に導く実践活動の選択手法を開発したいと考えています。AHPは複雑な課題に取り組む集団意思決定場面で大きな効果を発揮します。AHPについては本調査の第3部の冒頭をご参照ください。

本アンケート調査のウェブサイトは以下の通りです。

<https://univ-intl-survey.com/>

【調査のご説明】

- (1) 本調査の対象は、留学生が100名以上在籍する日本の国公立大学です。
- (2) 調査票は三部構成となっています。第一部は「大学全体」「国際化」「管理運営」に関することです。質問が多岐に亘っているため、お手数をおかけいたしますが、必要に応じてご担当の部署に回して、ご回答いただけますようお願いいたします。第二部と第三部は貴大学において国際化全般を把握されている方にご回答をお願いいたします。貴学の現在の状況に関する質問に対しては、大学の公的な見解としてご回答いただく必要はありません。回答者ご自身の主観的な評価をご記入ください。
- (3) 本調査結果はすべて統計的に処理し、大学名等を公表することは一切ございません。また、ご回答者の個人情報は厳重に管理し、本調査の目的以外には使用いたしません。
- (4) ご回答が困難な質問や貴学に馴染まない質問は空欄のままでも結構です。部分的でも構いませんので、できる限りご回答いただけますと幸いです。ご回答いただいた大学には、調査結果をご報告いたします。
- (5) 本アンケート調査はJSPS 科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号20K02935「大学国際化のマネジメント手法開発」(研究代表者: 太田浩)の監督の下、データ処理を専門とするAndigo合同会社に委託して実施いたします。個人情報の取り扱いについては、同社との契約の中で「守秘義務」についての規程があり、本調査により得られた貴学の担当者名などの個人情報については、適正に取扱い目的外に使用することは決してありません。
- (6) 本調査に関する問い合わせ・提出先

・調査票の内容に関する問合わせ先

一橋大学全学共通教育センター 教授 太田 浩

メールアドレス：int.ed.hu@gmail.com

※お問い合わせはできる限りメールでご連絡ください。お電話をご希望の際は、メールで電話番号をお知らせいただければ折り返しお電話いたします。

・調査票の記入及び返信に関する技術的な問合わせ先

調査票の回収および集約は、データ処理を専門とする Andigo 合同会社に委託し実施します。

Andigo 合同会社担当：久米 孝明

住所：〒779-3213 徳島県名西郡石井町藍畑字高畑東 275-1

メールアドレス：takaaki.kume@andigo-inc.com

「大学国際化のマネジメント手法開発」研究チーム

太田 浩 一橋大学全学共通教育センター

伊多波良雄 同志社大学研究開発推進機構

渡部由紀 東北大学高度教養教育・学生支援機構

新見有紀子 東北大学高度教養教育・学生支援機構

第 一 部

I 大学全体に関する事項

【問 1】文部科学省が提案する以下の大学の 7 つの機能分化において、貴学が目指しているものとして最も当てはまるもの一つを選んでください。

1. 世界的研究・教育拠点
2. 高度専門職業人養成
3. 幅広い職業人養成
4. 総合的教養教育
5. 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究
6. 地域の生涯学習機会の拠点
7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

＜プルダウンから選ぶ＞

【問 2】貴学の全学的な中・長期計画や戦略プランには国際的な、あるいはグローバルな目標と活動が記述されていますか。以下の選択肢から当てはまるもの一つを選んでください。

1. 国際的・グローバルな目標や活動は明記されており、かつ高い優先順位にある
2. 国際的・グローバルな目標や活動は明記されているが、優先順位は高くない
3. 国際的・グローバルな目標や活動は直接的には記述されていないが、間接的に「示唆」されている
4. 国際的・グローバルな目標や活動は記述されておらず、「示唆」もされていない

＜プルダウンから選ぶ＞

II 国際化に関する事項

【問 3】貴学の国際化の目的として、以下の A～E について優先度の高い順番に回答欄のリストボックスから記号を選択してください。

A	教育の質の向上
B	研究の質の向上
C	学生を異文化社会、またグローバル化する社会で上手く暮らし働いていけるよう準備させること
D	大学の国際的評判や知名度の向上
E	地域・社会貢献

優先度の選択肢

- 1位：プルダウンから選ぶ
- 2位：プルダウンから選ぶ
- 3位：プルダウンから選ぶ
- 4位：プルダウンから選ぶ
- 5位：プルダウンから選ぶ

【問4】貴学の国際化戦略として、以下のA～Dから該当するものを3つまで選び、優先度の高い順番に回答欄のリストボックスから記号を選択してください。

A	ワールドクラスの大学（世界的エリート大学）を目指す競争型国際化戦略
B	海外における大学の評判・知名度向上のための教育や研究における協力・ネットワーク型国際化戦略
C	国内における大学の評判・知名度向上（優秀な国内学生の獲得）手段としての国際化戦略
D	大学の生き残りをかけた（大学存続または大学の競争力維持のために留学生獲得が不可欠）国際化戦略
E	大学のある地域や社会の持続可能な発展や創生を支えるための国際化戦略

優先度の選択肢

- 1位：プルダウンから選ぶ
- 2位：プルダウンから選ぶ
- 3位：プルダウンから選ぶ

【問5】大学の国際化に関する貴学の実施状況について、当てはまるものにチェックを入れてください。

	全学部・部局 で実施	一部の学部・ 部局で実施	実施 していない
① 英語による授業科目の提供			
② 英語による学位課程の提供			
③ 外国人留学生に対するメンター制度（注1）、バディ制度（注2）、チューター制度（注3）のようなピア・サポート			
④ 外国人留学生に対する経済的支援（授業料減免、奨学金等）			
⑤ 外国人留学生に対する就職支援			
⑥ 国際ダブル・ディグリー・プログラム（注4）			
⑦ 国際ジョイント・ディグリー・プログラム（注5）			
⑧ 海外インターンシップ・プログラム			

⑨ 教育活動や卒業要件に、外部の語学検定試験（TOEFL、TOEIC、IELTS 等）を活用			
⑩ 教員・研究者に対する英語による論文執筆の支援（翻訳・校閲支援等）			
⑪ 大学院生に対する海外の学会での発表や出版の支援（旅費・校閲費支援等）			
⑫ 国内学生の海外留学・研修に対する経済的支援（奨学金等）			
⑬ 留学生と国内学生が混住する国際寮			
⑭ 留学生同窓会の組織化と支援			
⑮ 外国人留学生や教員と地域住民の交流・共生を促進する活動			

注 1 日本人学生が留学生の良き相談相手（メンター）として、学業やクラブ活動についての助言、銀行・郵便局での手続きや買い物など生活面での支援などを行い、留学生が円滑に日本での留学生活を送れるようサポートする制度。

注 2 留学生が勉学、キャンパス生活、生活習慣などについて困難を抱えている際、日本人学生が学友（バディ）として相談に乗る、留学生が日本での生活を有意義に過ごせるようサポートをするボランティア制度。

注 3 留学生に対して、日本人学生がチューターとして個別に課外指導を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的とする支援制度。

注 4 日本と外国の大学が、教育課程の実施や単位互換等について協議し、卒業要件を満たした学生に対し、双方の大学がそれぞれの学位を授与するプログラム。

注 5 日本と外国の連携する大学間で開設された共同の教育課程を修了した際に、複数の大学が共同で単一の学位を授与するプログラム。

【問 6】 貴学において全学レベルの国際教育交流（外国人留学生、国内学生の海外留学・研修、大学間交流等）を所管する組織（部課、センター）に関する以下の質問にご回答ください。（①から③は 2024 年 5 月 1 日現在、④から⑧は 2024 年 4 月から 2025 年 3 月）

①国際教育交流担当専任教員数（注 1）	（人）
②国際教育交流担当職員数	（人）
③海外協定大学数（全学と学部・部局間協定の合計）	（校）

	派 遣	受入れ
④交換留学生数（学部）（注 2）	（人）	（人）
⑤交換留学生数（大学院）（注 2）	（人）	（人）
⑥海外インターンシップ数（学部）（注 2）	（人）	
⑦海外インターンシップ数（大学院）（注 2）	（人）	

注 1 「国際教育交流関係を担当することで採用された専任教員」を指す。国際交流委員会、留学生委員会等の委員は含まない。

注 2 単位取得・認定を伴うものに限る。

Ⅲ 管理運営に関する事項

【問 7】 貴学の理事長について、いずれか該当する方を選んでください。

【 】① 現在の理事長は、学園の創設者またはその親族である。

【 】② 上記以外である。

① 理事会の開催数（2024 年 4 月から 2025 年 3 月）	(回)
② 理事の職務分担の有無（どちらかを選択）	あり ・ なし
③ 学長の選任方法（注 1）（いずれか一つを選択）	A：選挙（教員のみ） B：選挙（教職員） C：理事会の選任 D：理事長の指名 E：学長選出委員会及びこれに類する機関 F：その他 （ ）

① 全学的な中長期計画策定を専門に担当する部署がありますか（どちらかを選択）	あり ・ なし	
② 当該中長期計画策定に担当者数（注 1）	教員 （人）	職員 （人）
③ 全学的な評価を専門に担当する部署がありますか（どちらかを選択）	あり ・ なし	
④ 当該評価担当者数（注 2）	教員 （人）	職員 （人）
⑤ I R を専門に担当する部署がありますか（どちらかを選択）	あり ・ なし	
⑥ 当該 I R 担当者数（注 3）	教員 （人）	職員 （人）

6

い。そのような担当部署がない場合は、主たる業務としてIRを担当している教員・事務職員の人数をご記入ください。

【問 10-1】国際化に特化した全学的な評価について、いずれか該当する方を選んでください。

() ①国際化に特化した全学的な評価を行っている。⇒ 次の質問【問 10-2】も回答してください。

() ②上記のような評価は行っていない。

【問 10-2】国際化に特化した全学的な評価の手法で、貴学が実施しているものすべてにチェックを入れてください。

国際化に特化した評価の手法	実施しているもの
① 自大学のニーズに応じて独自に実施する自己点検・分析で、他大学との比較は含まない	
② 国内の他大学との比較を通した自己点検・分析	
③ 海外の大学との比較を通した自己点検・分析	
④ 国内の他大学と協働し、相互評価・情報共有を図る評価	
⑤ 海外の大学と協働し、相互評価・情報共有を図る評価	
⑥ 外部評価	
⑦ 海外の機関による認証あるいはサーティフィケートなどが授与される評価	

【問 11】貴学には国際化に関する諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がありますか。以下の選択肢から当てはまるもの一つを選んでください。

1. 学外構成員による国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がある。
2. 学内構成員による国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がある。
3. 学外と学内両方の構成員による国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がある。
4. 国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がない。

<プルダウンから選ぶ>

第 二 部

第二部は、貴学における国際化の現況について、ご回答者の主観で評価しご記入ください。ご回答は貴学の国際化全般を把握されている方をお願いいたします。各設問は、次の5段階で評価してください。

- | |
|--------------|
| 5 強く思う |
| 4 そう思う |
| 3 どちらともいえない |
| 2 あまりそう思わない |
| 1 まったくそう思わない |

【問1】教育の国際化に関することについて当てはまるものを選んでください。

	強く思う ←————→ まったくそう思わない				
① 交換留学プログラム（海外の協定大学での勉学）の量と質は、学生の需要に応えられている	5	4	3	2	1
② 短期留学プログラム（語学研修や異文化研修）の量と質は、学生の需要に応えられている	5	4	3	2	1
③ 日本語教育の量と質は、留学生の需要に応えられている	5	4	3	2	1
④ 英語による授業科目の質と量は、学生の需要に応えられている	5	4	3	2	1
⑤ 外国人留学生が増え、学生の人的構成の多様化が進んでいる	5	4	3	2	1
⑥ 外国人留学生と国内学生の国際共修（注1）・多文化共修（注2）が推進されている	5	4	3	2	1
⑦ 地域における在住外国人との共生社会実現に向けた教育が推進されている	5	4	3	2	1

注1 文化や言語の異なる学生同士が、グループワークやプロジェクトなどでの協働学習体験を通して、意味ある交流(Meaningful Interaction)により相互理解を深めながら、他者を理解し、己を見つめなおし、新しい価値観を創造する一連のプロセスのこと。

注2 大学等が教育研究活動を行う国内外の地域における課題について、その抽出から分析、解決策の検討及び提案、社会実装に至るまでの過程において、日本人学生と外国人学生がそれぞれの文化的多様性を活かし共に学修すること。

【問2】国際化関連の学生支援について当てはまるものを選んでください。

	強くそう思う				まったくそう思わない
① 外国人留学生に対する勉学支援は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
② 外国人留学生に対する生活支援（経済的支援を含む）は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
③ 外国人留学生に対する精神的支援は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
④ 外国人留学生と地域住民との交流・共生に対する支援は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
⑤ 外国人留学生に対する就職支援は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
⑥ 大学の情報は複数の言語で提供され、在学する外国人留学生と日本留学希望者の需要に応えられている	5	4	3	2	1
⑦ 海外留学する学生の留学準備と帰国後に対する支援は適切に提供されている	5	4	3	2	1
⑧ 海外留学・研修する学生に対する経済的支援は、適切に提供されている	5	4	3	2	1

【問3】研究の国際化に関することについて当てはまるものを選んでください。

	強くそう思う				まったくそう思わない
① 教員・研究者に対する英語による論文執筆のための支援（翻訳・校閲支援等）は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
② 大学院生に対する海外の学会での発表や出版の支援（旅費・校閲費支援等）は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
③ 教員・研究者に対する海外の研究資金応募のための支援は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
④ 海外から客員・訪問研究者を受入れるための支援は、適切に提供されている	5	4	3	2	1
⑤ 教員・研究者が海外の大学に客員・訪問研究者として、派遣される制度があり、その機会は適切に提供されている	5	4	3	2	1
⑥ 大学として、国際共同研究を支援する	5	4	3	2	1

ための制度が整備され、適切に提供されている	
-----------------------	--

【問４】教職員の国際化に関することについて当てはまるものを選んでください。

	強く思う → まったく思わない				
① 教員の昇進やテニユア（終身在職権）取得にあたって、海外での就労経験や教育・研究活動は適切に考慮されている	5	4	3	2	1
② 外国籍（出身）教員・研究者が増え、教員・研究者の人的構成の多様化が進んでいる	5	4	3	2	1
③ 外国籍（出身）職員が増え、職員構成の多様化が進んでいる	5	4	3	2	1
④ 大学の情報は複数の言語で提供され、外国人教職員と研究者の需要に応えられている	5	4	3	2	1
⑤ 外国人教職員と研究者の生活に関する支援は適切に提供されている	5	4	3	2	1
⑥ 国際化に特化した教職員に対する研修（FD/SD）は適切に提供されている	5	4	3	2	1

【問５】国際化関連の管理運営（マネジメント）について当てはまるものを選んでください。

	強く思う → まったく思わない				
① 国際化のための戦略を設定しており、それに基づいて、国際化を推進している	5	4	3	2	1
② 国際化のための予算が確保され、適切に配分されている	5	4	3	2	1
③ 国際化のための人的資源が確保され、適切に配分（配置）されている	5	4	3	2	1
④ 国際化の達成度を測定するための方法を設定し、それに基づいて評価を行っている	5	4	3	2	1
⑤ 外国人留学生の在籍管理は適切に行われている	5	4	3	2	1

【問６】国際化関連のガバナンス・リーダーシップに関することについて当てはまるものを選んでください。

	強く思う ←————▶ まったくそう思わない
① 学長のリーダーシップの下、執行部が中心となって国際化の方針を決定し、それを実行している	5 4 3 2 1
② 国際化の中長期計画や戦略に関する意思決定の過程は、明らかにされている	5 4 3 2 1
③ 国際化への取り組みの責任の所在は、大学本部と各学部（部局）で、それぞれ明確である	5 4 3 2 1
④ 海外の大学と新たに協定を締結するための意思決定と過程は明らかにされている	5 4 3 2 1
⑤ 海外の既存協定校との協定継続、または協定見直しの意思決定と過程は明らかにされている	5 4 3 2 1

第 三 部

第三部は、貴学における全学的な国際化の現状について、ご回答者の主観で評価し、ご記入ください。ご回答は貴学の国際化全般を把握されている方をお願いいたします。

大学の使命は教育・研究・社会貢献といわれております。さらに、近年は社会の変化に対応するため、大学機能の多様化・高度化・複雑化に伴う管理運営も大学にとって重要な課題となっております。これらはいずれも必要不可欠な機能ですが、各大学が置かれている状況によって、その重要度には差があると考えられます。また、重要度は比較する視点（目的）によっても違いがあると考えられます。

そこで、第三部では全学的な国際化を推進する際に重視する3つの点のから、貴学の現状を踏まえて、国際化に関わる教育、学生支援、研究、教職員、管理運営（マネジメント）、ガバナンス・リーダーシップがどの程度重要と思われるのか、を評価していただきます。

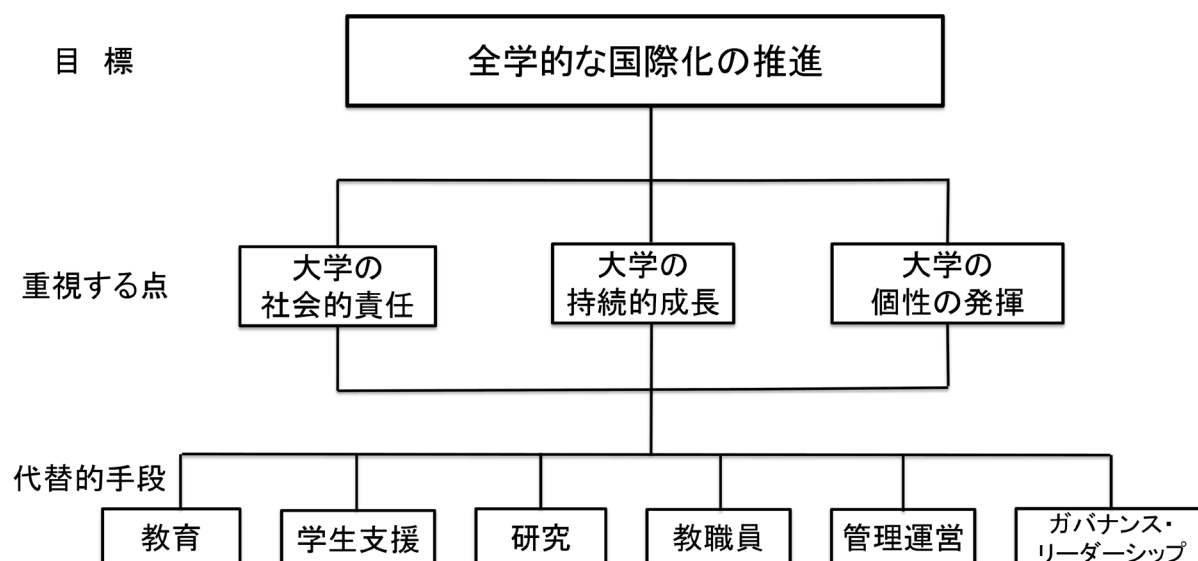
全学的な国際化を推進する際に重視する3つの点（大学の社会的責任・大学の持続的成長・大学の個性の発揮）は、ここでは次のようなことを意味するものとします。

- 大学の**社会的責任**：教育研究機関として、大学が本来有する社会的使命や公共的役割を全うすること。質の保証。
- 大学の**持続的成長**：大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、大学が自身の力で生き残っていくこと。自立的な経営主体としての存続。
- 大学の**個性の発揮**：国際競争力のある卓越した教育研究や地域に密着した人材育成等、それぞれの大学が有する独自の強みを活かすこと。存在価値の明確化。

代替的手段（教育の国際化、国際化関連の学生支援、研究の国際化、教職員の国際化、国際化関連の管理運営（マネジメント）、ガバナンス・リーダーシップ）がどのようなことを意味しているのかについては、第二部の問1から問6の設問がそれぞれの内容を説明するものとなっています。例えば、教育の国際化の場合は「①交換留学先（海外の協定大学）の量と質は、学生の需要に満たされている」「②短期留学プログラム（語学研修や、異文化研修）の量と質は、学生の需要に満たされている」「③日本語教育の量と質は、留学生の需要に満たされている」「④英語による授業科目の質と量は、学生の需要に満たされている」といったことが具体的な課題と考えられます。ご回答の際に、参照していただければ幸いです。

なお、第三部は、オペレーションズ・リサーチなどの分野で開発されている AHP（Analytic Hierarchy Process、階層分析法）を用いたアンケートです。

AHP では意思決定の問題を下図のように最終目標（全学的な国際化の推進）、重視する点（全学的な国際化を推進する際に重視する点）、代替手段の階層的な関係と捉えます。この階層構造に基づいて、最終目標からみた重視する点の重要度（ウェイト）、重視する点からみた代替手段の重要度（ウェイト）を一対比較（2つの項目を比較）、または絶対評価によって求め、それらを総合化します。このプロセスによって、貴学は全学的な国際化の推進においてどの代替手段がどれくらい重要と捉えられているのかを総合的に評価することができます。



■はじめに、全学的な国際化を推進する際に重視する点の重要度（ウェイト）を一对比較（2つの項目を比較）することによって決めます。

【問1】貴学では、全学的な国際化の推進という目標において、3つの重視する点（大学の社会的責任、大学の持続的成長、大学の個性の発揮）は、どの程度重要だと思いますか。3つの重視する点を一对比較（2つの項目を比較）することで重要度を決めてください。記入例を参考にして、回答欄のあてはまる箇所に、それぞれ一つだけチェックを入れてください。

※記入例は、左側の「△△△」が、右側の「▲▲▲」に比べて「左の項目がかなり重要」とした回答例です。

	左の項目が絶対に重要	左の項目がかなり重要	左の項目が重要	左の項目がやや重要	両方同じくらい重要	右の項目がやや重要	右の項目が重要	右の項目がかなり重要	右の項目が絶対に重要	
（記入例）△△△		✓								▲▲▲
1. 大学の社会的責任										大学の持続的成長
2. 大学の社会的責任										大学の個性の発揮
3. 大学の持続的成長										大学の個性の発揮

■次に、全学的な国際化を推進する際に重視する点（大学の社会的責任、大学の持続的成長、大学の個性の発揮）から、国際化を推進する際の代替手段の重要度を評価します。

【問 2】全学的な国際化の推進を貴学の「社会的責任」の視点から見たとき、各手段はどの程度重要だと思われますか。いずれの機能も重要という見方もあるとは思いますが、貴学の状況に応じて、ここでは「社会的責任」を意識した評価をお願いいたします。回答欄のあてはまる箇所に、それぞれ一つだけチェックを入れてください。例えば、以下の 1. については、貴学の「社会的責任」の視点から見て、「教育の国際化」の重要度を評価してください。

「社会的責任」の 視点から見た評価	とても重要	重要	普通	あまり重要 ではない	まったく重 要ではない
1. 教育の国際化					
2. 国際化関連の 学生支援					
3. 研究の国際化					
4. 教職員の国際 化					
5. 国際化関連の 管理運営					
6. 国際化関連の ガバナンス・ リーダーシッ プ					

【問 3】全学的な国際化の推進を貴学の「持続的成長」の視点から見たとき、各手段はどの程度重要だと思われますか。いずれの手段も重要という見方もあるとは思いますが、貴学の状況に応じて、ここでは「持続的成長」を意識した評価をお願いいたします。回答欄のあてはまる箇所に、それぞれ一つだけチェックを入れてください。例えば、以下の 1. については、貴学の「持続的成長」の視点から見て、「教育の国際化」の重要度を評価してください。

「持続的成長」の 視点から見た評価	とても重要	重要	普通	あまり重要 ではない	まったく重 要ではない
1. 教育の国際化					
2. 国際化関連の 学生支援					
3. 研究の国際化					
4. 教職員の国際 化					
5. 国際化関連の 管理運営					
6. 国際化関連の					

ガバナンス・ リーダーシッ プ					
-----------------------	--	--	--	--	--

【問４】全学的な国際化の推進を貴学の「個性の発揮」の視点から見たとき、各手段はどの程度重要だと思われますか。いずれの手段も重要という見方もあるとは思いますが、貴学の状況に応じて、ここでは「個性の発揮」を意識した評価をお願いいたします。回答欄のあてはまる箇所に、それぞれ一つだけチェックを入れてください。例えば、以下の1. については、貴学の「個性の発揮」の視点から見て、「教育の国際化」の重要度を評価してください。

「個性の発揮」の 視点から見た評価	とても重要	重要	普通	あまり重要 ではない	まったく重 要ではない
1. 教育の国際化					
2. 国際化関連の 学生支援					
3. 研究の国際化					
4. 教職員の国際 化					
5. 国際化関連の 管理運営					
6. 国際化関連の ガバナンス・ リーダーシッ プ					

ご回答いただいた大学には、調査結果をお送りいたしますので、大学名とメールアドレスを以下にご記入いただければ幸いです。

大学名	
メールアドレス	

◎質問は以上です。調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。